

2022 年度 一般社団法人日本臨床化学会 第 3 回理事会 Web 開催（新旧理事会）議事録

日 時：2023 年 3 月 24 日（金）15：30-17：30

議 長：三井田孝（理事長）

出席者：三井田孝（理事長）、菅野光俊、三浦雅一、山田俊幸、吉田 博（以上 常務理事）

川崎健治、川野克己、惠 淑萍、河野麻理、小谷和彦、酒瀬川信一、坂本秀生、柴田綾子、
城野博史、中川沙織、仁井見英樹、濱田悦子、堀田多恵子、村上正巳（以上 理事）、

前川真人、矢富 裕（以上 監事）

石井直仁、大川 龍之介、橋口 照人、山口哲史、山下計太（以上 新理事）

議 題

1. 開会の辞（三井田 理事長）
 - ・理事長から開催のご挨拶のあと、新理事候補の紹介ならびに挨拶があった。
2. 議事録確認者の指名（三井田 理事長）
 - ・菅野理事、山田理事が指名された。
3. 報告事項
 - 1) 庶務報告（山田 理事）
 - ・学会会員の現状報告ならびに事業報告・事業計画について報告がなされた。
 - ①学会会員現状報告
 - ・正会員数は増加傾向にあり、2022 年度では 107 名の正会員登録があった。企業会員は、3 社減少になり 39 社となった。
 - ②事業報告・事業計画
 - ・10 月以降、各種委員会の開催、学会誌発行、認定臨床化学・免疫化学精度保証管理者試験などが実施された。
 - ・4 月以降、6 月に理事会・社員総会の開催、学会誌発行、第 63 回年次学術集会開催などを予定している。
 - 2) 第 62 回年次学術集会報告（仁井見 第 62 回年次学術集会副会長）
 - ・2022 年 9 月 30 日（金）～10 月 2 日（日）に富山市で開催された第 62 回年次学術集会は、663 名の参加者があり、盛会にて終了した。
 - 3) 第 63 回年次学術集会準備状況報告（吉田 第 63 回年次学術集会会長）
 - 会 期：2023 年 10 月 27 日（金）～29 日（日）
 - 会 場：ソラシティカンファレンスセンター（東京都千代田区）
 - 集会長：吉田 博氏（東京慈恵会医科大学 臨床検査医学講座 教授）
 - 副会長：小倉正恒氏（順天堂大学医療科学部 臨床検査学科 教授）
 - テーマ：持続可能な医療の質を支える臨床化学の発展
 - ・演題募集を開始した。演題募集締め切りは 4 月 27 日（木）としているが延長することも想定している。
 - ・関東支部の先生方に協力いただき、プログラムを検討中。現時点では現地開催の予定だが、ハイブリット開催ではなく、状況次第ではオンデマンド開催も検討中。
 - 4) 須藤加代子先生 遺贈について（三浦 理事）
 - ・本会有功会員の須藤加代子先生が 2021 年 6 月に逝去されたが、所有されていた不動産や有価証券について本会に遺贈する旨代理人である司法書士から通知があった。本件について常務理事会にてメンバーを選出（三井田理事長、三浦理事、川崎理事、吉田理事）しワーキンググループを設置し検討をしている。
 - ・遺贈対象となる不動産物件のうち、3 物件について、現在も家賃収入（約 500 万円）が発生している。この家賃収入の申告について、相続人の代理人である司法書士から、本会で対応してほしい旨要望があり、ワーキンググループならびに常務理事会で検討し、本会の 2022 年度決算に計上

することとした。

5) その他 (三井田 理事長)

①APFCB Communication & Publication Committee

・ APFCB Communication & Publication Committee について、大川理事に委員を依頼し、APFCB にて承認された。

②公益社団法人日本臨床検査標準協議会 (JCCLS) ISO/TC212 国内検討委員会WG2

・ 日本臨床検査標準協議会ISO/TC212 国内検討委員会WG2のメンバー推薦の依頼があり、本会から山田理事、石嶺南生氏 (信州大学医学部附属病院) に依頼し、JCCLSにて承認された。

③日本薬系学会連合設立委員会

・ 日本薬系学会連合設立について本会にも協力依頼があり、設立のための準備委員会委員として本会から城野理事に入っていた。常務理事会では連合会に参加する意向で検討することが承認されたため、城野理事には引き続き委員として状況を報告していただく。

4. 協議事項

1) 2023 年度役員について (三井田 理事長)

①理事長 (代表理事) 指名理事

・ 理事長推薦として、橋口照人先生、濱田悦子先生、仁井見英樹先生に理事を依頼したい旨報告があり承認された。

②理事会務担当

・ 理事はそれぞれ委員会などの担当があるため、新理事を含めた 2023 年度の会務担当が提案され承認された。

2) 評議員推薦 (三井田 理事長)

・ 各支部に人数を割り振って評議員候補者 21 名を推薦していただいた。また、専門委員会委員長や副委員長となるが評議員ではなかった方について理事長推薦として 3 名の推薦があり、評議員候補者 24 名について提案がなされ承認された。

3) 委員会委員について (三井田 理事長)

①委員会組織について (常置委員会)

・ 各常置委員会の委員長・副委員長・委員の交代について提案があり承認された。

②委員会組織について (専門委員会)

・ 各専門委員会の新規委員長・副委員長・委員の交代について提案があり承認された。

4) 細則改定案について (三井田 理事長)

・ 有功会員は会誌を希望される場合のみ年会費 (6,000 円) を徴収しているが、会誌を希望しない方は会費免除の有功会員として登録している。常務理事会にて有功会員も一律に会費を徴収した方が良いのではという提案があり、細則改定案について常務理事会で検討した。

・ 細則第 3 条 (6) に有功会員会費は年額 6,000 円とあるが、年会費額を 3,000 円に変更し、第 3 条 2 の条文中、会費免除の文言を削除し、一律に有功会員会費を徴収するという条文に変更したい旨提案があり承認された。改定した条文は下記のとおり。

細則第 3 条 (6) 有功会員 年額 3,000 円

2 有功会員は正会員と同等の権利と義務を有するものとする。

5) 内規「プロジェクト申請から終了までの手順」改定について (山田 理事)

・ プロジェクトに関する現行の内規について不明瞭な部分があり、学術連絡委員会で検討した結果、一部修正する旨提案があり承認された。修正箇所は下記下線部分 (追加) とする。

内規「プロジェクト申請から終了までの手順」第5項 プロジェクトに関する報告

3) 「臨床化学」誌用プロジェクト報告書の提出と審議

・ プロジェクトの成果を、「臨床化学」誌プロジェクト報告として報告する場合は、定められた体裁 (「プロジェクト報告作成ガイドライン (Ver. 1.6)」) に整えて、学術連絡委員会に提出する。ただし、研究内容により同ガイドラインに整合させることが困難な場合は、部分的な整合でも可とする。

6) 投稿規定改定について (城野 理事)

- ・ 投稿論文について、査読者から倫理審査についての指摘があった。著者に確認したが、倫理委員会での審査を行っていないとの回答があり投稿論文は掲載不可となった。この件について編集委員会から法務委員会にも検討を依頼した際、投稿規定の「倫理研究」の内容について改定した方が良いのではとの指摘があり、改定案の提案があったため、編集委員会でも改めて検討したうえで理事会に提案した。
- ・ 常務理事会でいくつか指摘事項があったため、編集委員会で再度検討して、改めて審議依頼をする予定。

7) 「認定臨床化学・免疫化学精度保証管理制度」について (濱田 理事)

①合格者について

- ・ 認定臨床化学・免疫化学精度保証管理者：
 - ・ 2022年度は3名の申請があり、試験を実施した結果、3名とも合格となった旨報告があり承認された。申請者が年々少なくなっているため、案内を出して申請者増に務めたい。
 - ・ 今期は1回目の更新年度で9名の更新申請があり、書類審査の結果9名とも承認された旨報告があり承認された。
- ・ 認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師：
 - ・ 日本臨床衛生検査技師会（日臨技）より、受験者99名、合格者87名となった旨報告があり承認された。

②指定講習会開催について

- ・ 日臨技も数年前からオンデマンドで開催していることや、第62回年次学術集会での指定講習会が現地参加者50名弱だったため、教育委員会で検討した結果、講師の負担も鑑み、2023年度はオンデマンドで開始したいという提案があり承認された。
- ・ 第63回年次学術集会会長からも了承を得たため、2023年度の指定講習会はオンデマンド開催とする。
- ・ 講習会の内容については、日臨技の内容に管理者用の内容を追加する予定。

③更新セミナーについて

- ・ 更新申請者用の更新セミナーを7月頃オンデマンドで開催する予定で日臨技に申請をし、準備を進めている。
- ・ 第63回年次学術集会でのプログラム内容が決まれば、現地参加の方の単位取得が可能となるため、プログラムが決定したら教えて欲しい。
- ・ 若手育成委員会とも情報共有をして、研修会に参加したら単位取得できるなど、関わっていききたい。

④試験委員会について

- ・ 精度保証管理者試験の試験委員会は委員の人数が少なく運営的に厳しい現状である。教育委員会から、できるだけ協力いただきたいという提案があった。この件について、試験委員会は他の委員会とは位置づけが違うため、日当などを支給してもよいのではないかという意見があった。謝金などの対応について、菅野理事、濱田理事に検討を依頼した。

8) 利益相反細則改定ならびにCOIの開示について (柴田 理事)

- ・ 前回の理事会で承認いただいたCOIの申告・開示に関する金額を年間200万円から100万円に減額した。
- ・ COIの開示場所について法務委員会で検討し、開示場所は問わないこととし、細則を改定した。
- ・ 学会発表時の共同演者のCOI開示について、演者全員となっているので、共同演者も開示する。
- ・ 学会ホームページに公開中のCOI開示に関する内容を変更し、ボタン表示などでわかりやすくなるよう変更したい旨提案があり承認された。

9) 専門委員会設置について (三井田 理事長・城野 理事)

- ・ 精度管理の概念から、検体検査のTDM（薬物血中濃度）に特化した薬学系の専門委員会を設立し、TDMの精度管理についての活動を進めていきたい旨説明があり承認された。メンバーなどを検討

し、学術連絡委員会への申請手続きを進める。

10) WORLDLAB2026 立候補について (三井田 理事長)

・ 常務理事会でも検討したが、費用的な問題もあり、今回は辞退する。

11) 共催シンポジウムについて

① 日本プロテオーム学会 2023 年大会共催シンポジウムについて (城野 理事)

・ 昨年同様、日本プロテオーム学会 2023 年大会にて薬学関連のシンポジウムを開催する機会を得たので、本会との共催シンポジウムを開催したい旨提案があり承認された。

② 第 55 回日本動脈硬化学会総会・学術集会 (吉田 理事)

・ 第 55 回日本動脈硬化学会総会・学術集会にて本会との共催シンポジウムを計画している。セッションテーマは「動脈硬化：臨床検査 update」とする旨提案があり承認された。

5. その他

① 名誉会員への移行について

・ 矢富監事の名誉会員就任時期について 2 年後ではなく 2024 年 4 月 1 日に実施したい旨提案があり承認された。6 月に開催する社員総会で承認を得る予定。

② 医師会員について

・ 現行の医師会員の分布を調査したところ、若手の医師会員がかなり少ないことが判明した。理事の先生方には若手の方の入会の誘導と学会発表など、医師会員増に協力をいただきたい。

③ 次回理事会日程

・ 6 月 30 日 (金) に常務理事会・理事会・社員総会を開催予定。詳細は改めてお知らせする。

6. 閉会の辞 (三井田 理事長)

・ 理事長より挨拶があり、理事会は閉会した。

以 上

2023 年 4 月 25 日

一般社団法人日本臨床化学会 新旧理事会

議長

三井田 孝



議事録確認者

菅野 光俊



議事録確認者

山岡 俊章

